

クヌッセン機関長の故郷をたずねて デンマークへ訪問団を派遣

7月2日(日)～9日(日)に、海の勇者として知られるヨハネス・クヌッセン機関長の生まれ故郷であるデンマーク王国へ訪問団が派遣されました。

これは、クヌッセン機関長の没後60周年および日本とデンマーク王国の国交樹立150周年を記念して行われたもので、日高町からは松本秀司町長、玉井幸吉教育長、清水正巳町議会議長が訪れたほか、下宏和歌山県副知事、森下誠史美浜町長らが訪問。

クヌッセン機関長のお墓に献花した後、顕彰記念コーナーが設置されているバングスボー博物館や、同機関長が幼少期を過ごした家などを視察しました。

その後も日高高校の姉妹校であるフレデリクスハウン高校や、ミュージックハウスなどを訪れデンマーク王国の人々と交流を深め、フレデリクスハウン市と友好交流提携の覚書を締結。クヌッセン機関長の遺徳について後世まで語り継ぎ、日高町とフレデリクスハウン市間の友情と尊敬を更に深化させることを約束しました。



クヌッセン機関長の肖像
(写真提供・東京都武市斌臣氏)



ヨハネス・クヌッセン

機関長

昭和32年2月10日夜、日ノ御崎沖合いを航行中のデンマーク船エレンマースク号が、大荒れの海上で炎上している徳島県の「高砂丸」を発見。乗組員の救助に当たった際に、海中に転落した日本人船員を助けようと、クヌッセン機関長は自らの命をかえりみず激浪に飛び込んでいったが、ついには力尽きて波間に消えてしまった。

翌日、田杭海岸に同氏の遺体と救命艇が流れ着いた。この次第を聞いた田杭地区の人たちが、あまりにも勇敢なクヌッセン機関長の行動に感動を受け、せめて彼の魂を弔いたいと、供養塔を建て、住民が交互に献花。清掃をして、絶やすことなく慰霊の気持ちを抱き続けている。

クヌッセン機関長の命日である2月10日には、毎年慰霊の献花式が行われ、殉難60周年である今年にはデンマーク王国からメテボク文化大使夫妻、フレディス・ヴェイネ駐日大使らも献花に訪れた。



フレデリクスハウン市と友好提携の覚書を締結

左から松本町長、ピアギッテ・スティンバック・ハンセン市長(フレデリクスハウン市)、
森下誠史町長(美浜町)、下宏副知事(和歌山県)

デンマーク訪問を終えて

松本町長

「この記念すべき年に、フレデリクスハウン市と友好提携の覚書を交わせたことを大変嬉しく思います。マースクエアライン社(クヌッセン機関長が所属していた会社)を訪問した際に、同社の副代表より、「田杭の皆様へ尊敬の念を持って、お礼申し上げます」というお言葉を頂きました。荒れ狂う海の怖さを知りながらも、日本人船員を救う為に命を懸けたクヌッセン機関長。そして、同じ海に生きる者として、クヌッセン機関長の勇気を讃え語り継いできた田杭の方々へ、私も深く感謝と尊敬を表し、日高町とフレデリクスハウン市の絆が末永く続くよう、後世に伝えていきたいと思えます。」

清水議会会議長

「日本とデンマークの友好条約が締結されてから150年、クヌッセン機関長の生誕100年殉職60年というこの年に、機関長のふるさとフレデリクスハウンを訪問し、お墓参りができたことは大変意義があつたと思います。今日の友好関係が末永く続き、またフレデリクスハウン高校との国際交流が更に発展し、次世代に繋がっていくことを願っています。」

玉井教育長

「デンマークの皆様は、思いやりに満ちたとても素晴らしい方々でした。絆を結んでくれたクヌッセン機関長に深く感謝し、子ども達にも語り継いでいきたいと思えます。また、デンマークとの交流を通じて、日高町の子ども達が世界に目を向けるきっかけを掴んでくれたらと思います。」